

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	現代の国語	学年	単位数
国語	■必修 □選択	1年	2単位
使用教科書	新編現代の国語	使用教室	
	2 東書 701	HR教室	
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。		
評価	定期考査、授業中の発言・発表、プリント課題への取り組みによって評価します。		
	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
	b	思考・判断・表現	論理的に考える力、深く共感し豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ、深めることができるようになる。
	c	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値に対する認識を深め、読書に親しんで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	自己を見つめる	物事を多角的に捉える力を養うために各種の媒体から気になるニュースを集めて整理し、クラスで発表する。	漢字の読解、語句の意味把握等	授業中の発表状況	プリントや発表原稿の進捗状況
	5	6	他者に出会う	自分の意見を的確に相手に伝えるため気になるテーマを決めて自分の意見をまとめ、説得力のある文章を書く。	論説文の読解能力、中間考査	テーマ設定や着眼点、中間考査	意見文の取り組み状況
	6	7	言葉と生活Ⅰ	わかりやすい説明をするために3人のグループを作り、口頭で道順を伝える等のロールプレイを行う。	口頭での伝達能力	伝達方法の工夫	ロールプレイへの意欲
	7	3	言葉と生活Ⅰ	事実を説明する時と感情を述べる時に使い分けられるよう、発信者によって違う文章を読み比べる。	グラフ、写真の読解力、期末考査	説明のわかりやすさ、期末考査	話し合いへの積極的な参加
2 学期	9	8	視野を広げる	会議のルールを知り、記録を作成する力を養うため案内状と会議資料を作り会議進行と議事運営の方法を学ぶ。	会議の進行方法の習得	会議資料、議事録のまとめ能力	会議資料作りへの向き合い方
	10	7	社会と関わる	進路選択を見据え、自分が興味のある職業について情報収集し、その職業の紹介文を書く。	漢字、語句理解、中間考査	調査結果構成力、中間考査	職業調べの取り組み状況

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	11	8	言葉と生活Ⅱ	グループで「ブレインストーミング」「カードによるグルーピング」を使ってディスカッションする。	発想を広げる手法の修得	ディスカッションへの積極的参加	情報の可視化作業への取り組み
	12	4	言葉と生活Ⅱ	新聞記事について自分の意見を文章にする。また、テーマを掘り下げるためにそれに即した「問い」を考える。	新聞記事を要約する力、期末考査	見出しをつけるセンス、期末考査	意見文を書く作業への取り組み
3 学期	1	6	世界とつながる	他校の友人に自分の学校を紹介する想定で自校の生徒向けにアンケートを作成し、回答を元に紹介文を書く。	アンケート結果の分析・集約力	わかりやすい紹介文を書く力	アンケート内容を検討する姿勢
	2	8	未来に目を向けるⅠ	1枚のポスターに自分の発信したい内容をまとめ、ポスターセッションによる発表を行う。	選んだスポーツの深い知識を得る	調べた内容を反映させる力	ポスター作成への積極的参加
	3	7	未来に目を向けるⅡ	教科書掲載の評論などを参考にテーマを設定し、スライドを用いた発表を行う。	評論文の読解力、期末考査	テーマを設定する力、期末考査	スライド発表への積極的参加

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自分で調べる、考える、判断するなど、授業での学習活動を重視してポイント化し、評価に反映させます。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	公共		学年	単位数
公民	科目名	■必修 □選択	1年	2単位
使用教科書	高等学校 新公共		使用教室	
	183 第一	711	HR教室	
学習の目標	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。			
評価	評価法	・授業態度・発問評価・提出課題・小テスト・定期考査などを基に総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
		b	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4 月	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	①社会に生きる私たち、②個人の尊厳と自主・自律、③多様性と共通性、④伝統文化とのかかわり、⑤自立した主体をめざして	・確認問題 ・提出プリント	・演習問題	・授業の取り組み状況
		2	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方と生き方	①人間と社会のあり方についての見方・考え方	・中間考査		

(裏に続く)

	5月	6	第3章 公共的な空間における基本的原理	①人間の尊厳と平等、個人の尊重、②民主主義と法の支配、③自由・権利と責任・義務、④日本国憲法に生きる基本的原理			
	6月	8	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち	主題1「法や規範の意義と役割」 ①私たちと法、②法と基本的人権、③自由に生きる権利と法・規範、④平等に生きる権利と法・規範、⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範、⑥法をよりよいものにするための権利 主題2「契約と消費者の権利と責任」 ①さまざまな契約と法、②消費者の権利と責任 主題3「司法参加の意義」 ①裁判所と司法、②国民の司法参加	・確認問題 ・提出プリント	・演習問題	・授業の取り組み状況
	7月	4	第2章 政治的な主体となる私たち	主題4「政治参加と公正な世論形成」 ①私たちと選挙、②選挙の現状と課題、③世論の形成と政治参加、④国会と立法、⑤内閣と行政、⑥地方自治と住民福祉			
2学期	9月	8		主題5「国際社会と国家主権」 ①国家と国際法、②国境と領土問題、③国際連合の役割と課題 主題6「日本の安全保障と防衛」 ①平和主義と安全保障、②日本の安全保障体制の変容、③核兵器の廃絶と国際平和	・確認問題 ・提出プリント	・演習問題	・授業の取り組み状況
	10月	8		主題7「国際社会の変化と日本の役割」 ①今日の国際社会、②人種・民族問題と地域紛争、③国際社会における日本の役割	・中間 ・考査		
				第3章 経済的な主体となる私たち	主題8「雇用と労働問題」 ①私たちと経済、②労働者と権利、③労働環境と課題		
	11月	8		主題9「社会の変化と職業観」 ①日本経済のこれまでとこれから、②技術革新の進展、③現代の企業、④中小企業の現状と役割、⑤日本の農林水産業	・確認問題 ・提出プリント	・演習問題	・授業の取り組み状況
12月	2		主題10「市場経済の機能と限界」 ①市場経済と経済運営、②市場のしくみ、③経済発展と環境保全、④国民所得と私たちの生活、⑤経済成長と国民の福祉 主題11「金融のはたらき」 ①金融の意義と役割、②金融のいま	・期末 ・考査			

(裏に続く)

3 学期	1 月	6		主題12「財政の役割と社会保障」 ①財政のしくみと租税、②日本の財政の課題、③社会保障と国民福祉、④これからの社会保障	・確認問題 ・提出プリント ・学年末考査	・演習問題	・授業の取り組み状況
	2 月	8		主題13「経済のグローバル化」 ①国際分業と貿易、②国際収支と国際経済体制、③外国為替相場の動き、④グローバル化する経済、⑤地域的経済統合、⑥国際社会における貧困や格差、⑦地球環境問題、⑧資源・エネルギー問題、⑨国際社会のこれから			
	3 月	2	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	①地球環境問題、②資源エネルギー問題 ③生命倫理、④情報、⑤国際社会の課題			

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**  
 社会に参画する際に必要になる知識や現状を理解し、実際の社会の課題と向き合う力を身につけることを目指す教科です。日常の社会の動きに興味をもってください。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	科目名		学年	単位数
数学	数学 I ■必修 □選択		1年	2単位
使用教科書	新 高校の数学 I		使用教室	
	104 数研	716	HR教室	
学習の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価	評価法	定期考査、提出プリントの内容(毎時)、授業での取り組む姿勢、復習問題・チャレンジ問題、振り返りシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程から考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を示している。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4月	6	第1章 数と式 第1節 数と式の計算	計算の基礎 ・小学校中学校で習ってきた学習を振り返る。 ・基礎の確認と定着を図る	復習問題  提出プリント	チャレンジ問題	授業の発表と取組状況
	5月	4		単項式と多項式 / 多項式の加法減法乗法 ・多項式と同類項をまとめ、整理することができる。 ・多項式の加法、減法の計算ができる。 ・指数法則や分配法則を用いて、多項式の乗法の計算ができる。	中間考査	中間考査	振り返り
		4		展開の公式 ・展開の公式を利用できる。			
	6月	8		因数分解 / 展開、因数分解の工夫 ・式の展開と分配法則を理解する。 ・式に応じて因数分解ができる。	期末考査	期末考査	
	7月	4		根号を含む式の計算 / 実数 ・平方根を理解し、分母の有理化ができる。 ・実数および絶対値について理解する。			
			1	課題学習	身近にある平方根 日常生活の中にある平方根を見つけ、理解を深める。		

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9 月	2	第2節 1次不等式	1次方程式 ・解の意味を理解し、1次方程式を解くことができる。	復習 問題  提出 プリント	チャレ ンジ 問題	授業 の 発表 と 取組 状況
		6		不等式 / 不等式の解 ・数量の大小関係を式で表現することができる。 ・不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。			
	10 月	2	第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ	関数 / 1次関数のグラフ ・関数について理解し、関数の値を求めることができる。 ・日常の事象の中に関数を見つけようとする。	中間 考查	中間 考查	振り 返り
		5		2次関数のグラフ(1) ・ $y=ax^2$ 、 $y=ax^2+q$ のグラフをかくことができる。 ・放物線のもつ性質に興味・関心をもち、自ら調べようとする。			
	11 月	3		・ $y=a(x-p)^2$ 、 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフをかくことができる。 ・ $y=a(x-p)^2+q$ のグラフについて、x軸方向、y軸方向の平行移動の組み合わせとみて考察することができる。	期末 考查	期末 考查	
		5		2次関数のグラフ(2) ・ $ax^2+bx+c$ を $a(x-p)^2+q$ の形に変形できる ・平方完成を利用して $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくことができる。			
	12 月	1	課題学習 いろいろな式のグラフを描く ・GeoGebraを使い、係数を変化させてグラフの動きを考察する。 ・他の人の意見を聞き、探究を深める。			課題 学習 での 考察	
3 学期	1 月	6	第2節 2次関数の値 の変化	2次関数の最大値、最小値 ・平方完成を利用して、2次関数の最大値、最小値を求めその考えを伝えることができる。 ・図をかいて視覚的に考察しようとする。	復習 問題  提出 プリント	チャレ ンジ 問題	授業 の 発表 と 取組 状況
		4		グラフと2次方程式 ・因数分解や解の公式を利用して2次方程式を解くことができる。 ・グラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、2次方程式と関連させて考察することができる。			
	2 月	3	グラフと2次不等式 ・2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解くことができる。 ・2次不等式の解と2次関数の値の符号を相互に関連させて考察することができる。			振り 返り	
	3 月	2	課題学習 たこ焼きの値段を考える。 ・日常における最大・最小の問題の解決に、2次関数を活用することができる。自分の考えを伝え、他の人の意見を踏まえて考察することができる。	学年 末 考查	学年 末 考查	課題 学習 での 考察	

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

基礎からゆっくりに学び直しをしますので、授業にしっかりと参加することが理解につながります。受け身ではなく、自分から学ぶ姿勢で取り組みましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	生物基礎		学年	単位数
理科	■必修 □選択		1年	2単位
使用教科書	高校生物基礎		使用教室	
	7 実教	704	HR教室	
学習の目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
評価	評価法	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。
		b	思考・判断・表現	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4月	6	生物の多様性と共通性	①生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ②原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 (定期考査)	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	5月	10	生物とエネルギー	①生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ②体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。 (定期考査) ③呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。(発問評価)			
	6・7月	10	遺伝情報とDNA	①DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 ②ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 ③体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。 (定期考査) ④DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。 ⑤ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。 ⑥細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見だし、理解しようとする。 (発問評価・授業態度)			
			遺伝情報とタンパク質の合成	①DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 ②遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。 (定期考査) ③DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。(発問評価)			
2 学期	9月	10	体内環境	①体内環境が一定の範囲に保たれることその意味を理解している。 ②腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。(定期考査) ③外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	10月	10	体内の維持のしくみ	①神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ②ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。(定期考査) ③体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。 ④血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 (発問評価)			

(裏に続く)



期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	1 月	16	免疫	①病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ②免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。(定期考査) ③資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 ④病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ⑤ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 (発問評価・課題提出) ⑥病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。(発問評価・授業態度)	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント 内の振り返り 定期テスト
			生態系とその成り立ち	①陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 ②植生の遷移についてその過程を理解している。(定期考査) ③資料に基づいて、遷移の要因を見い出して理解することができる。			
3 学期	1 月	8	植生とバイオーム	①地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。(定期考査) ②地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。 (発問評価・授業態度)	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント 内の振り返り 定期テスト
	1・2 月	10	生態系と生物と多様性	①生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。 ②生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 (定期考査) ③生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。 ④生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 ⑤世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 (発問評価・課題提出)			
			生態系のバランスと保全	⑥生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。 ⑦生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)			
	3 月	2	1年の振り返りとまとめ	学年末試験終了後の特別時間割にて、 ①学習した分野において興味関心を持った内容を選択し、その理由について表現できる。 ②生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度や生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する姿勢を表現できる。 ③自己の考えや、学習した内容を日常生活のどの場面に活用できるか想像し、表現できる。	定期テスト 授業中の発問	まとめ プリント設問	まとめ プリント内容

担当者からのメッセージ(学習方法など)

シラバスを道しるべにゆっくりと進んでいく予定です。單元ごとに中学校の復習内容も入れることがあります。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	体育		学年	単位数
体育	■必修 □選択		1年	2単位
使用教科書	現代高等保健体育		使用教室	
	50 大修館	701	体育館など	
学習の目標	運動の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習を通し、生涯にわたって、運動を豊かに継続するための資質と能力を育てる。			
評価	評価法	自己の体調を考えながら、積極的に授業に参加している様子などを観察し、技能テスト・理解度テスト、学習ノートや振り返りシートを加味して評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	スポーツの特性に応じた基本技能を身に付けており、技の名称や作戦名を知っている。取り組むスポーツの歴史やルール・マナーを理解している。
		b	思考・判断・表現	スポーツの特性に応じた合理的な動きを身に付けたり、より良い作戦を作り出すなどの課題を解決しようとしている。また、仲間と良い点や修正点を教え合うことができる。競争する場面で、より良いマナーについて自己を振り返ろうとしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	仲間を尊重しつつ、健康安全に留意して、知識や技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力を身に付けようと、自主的に自らの学習に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	4	体づくり運動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽しくできる手軽な運動を行い、積極的に仲間と関わるができる。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観察 振り返り シート
	5	11	陸上競技	短距離走・長距離走・跳躍の基本動作の習得をめざし、仲間とともに協力して、自己の課題を発見し、解決のために工夫して練習できる。			
	6 7 月	11	選択授業1 (3種目中1 種目選択)	ネット型球技を選択し、練習やゲームを通して、バドミントンはハイクリアストローク、卓球はバックハンドストローク、バレーボールはオーバーハンドパス・アンダーハンドパスの習得を仲間と協力しながら学習できる。			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9 月	4	体づくり運動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽しくできる手軽な運動を行う。また、体の柔らかさや力強い動き、動きを持続する運動などを考え、仲間とともに運動できる。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観察 振り返り シート
	10 月	10	選択授業2 (2種目中1 種目選択)	ゴール型球技を選択し、練習やゲームを通して、バスケットボールではパス・シュートをサッカー(フットサル)ではパス・ドリブルの習得を仲間と協力しながら学習できる。			
	11 月	10	選択授業3	剣道・ダンス・ベースボール型スポーツの中からクラスで一つ選択し基本技を身に付ける。			
	12 月	2	体育理論	スポーツの歴史的発展と多様な変化について理解する。現代スポーツの意義や価値について理解する。			
3 学期	1 月	2	体づくり運動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽しくできる手軽な運動を行う。また、体の柔らかさや力強い動き、動きを持続する運動などを考え、仲間とともに運動できる。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観察 振り返り シート
	2 月	12	選択授業4 (3種目中1 種目選択)	ネット型球技を選択し、練習やゲームを通して、バドミントンの様々なストローク、卓球の様々なサーブ、バレーボールのスパイクが打てるように仲間と協力しながら学習できる。			
	3 月	4	体育理論	スポーツの経済的効果と高潔さについて理解する。スポーツが環境や社会にもたらす影響について理解する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

安全に注意して、みんなで協力し合いながら、学習しましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	保健		学年	単位数
保健	科目名	■必修 □選択	1年	1単位
使用教科書	現代高等保健体育		使用教室	
	50 大修館	701	HR教室	
学習の目標	現代社会と健康について理解を深めて、課題を発見し、解決方法を思考判断し、それを他者に伝える力を養う。安全な社会生活について理解し、応急手当てができるようになるとともに、安全に関する原則や概念に着目して、危険の予測や回避ができるようになる。			
評価	評価法	提出物(プリント・ノート)(毎時間)・レポート課題及び定期考査、授業中の積極的な取り組みをもって評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	現代社会と健康、安全な社会生活について理解し、応急手当や危険を回避する知識と技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考判断し、自分の言葉で他者に伝えることができる。
		c	主体的に学習に取り組む態度	自他及び社会における健康や安全な生活を営むための知識や技能を身に付けようと、粘り強く、主体的に学習に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4 月	3	健康の考え方と成り立ち	・健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	期末考査	提出物(プリント) レポート課題	授業の取り組み ノート 振り返りシート
			私たちの健康のすがた	・我が国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。			
	5 月	3	生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。			
			がんの原因と予防	・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。			
	6 月	9	がんの治療と回復	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。			
			運動と健康	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。			
	7 月	9	食事と健康	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。			
			休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9 月 10	4	喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	期末 考査	提出 物(プ リント) レポ ート課 題	授業 の取 り組 み  ノ ー ト  振 り 返 り シ ー ト
			飲酒と健康	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。			
			薬物乱用と健康	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。			
	11 月	4	精神疾患の特徴	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。			
			精神疾患の予防	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。			
			精神疾患からの回復	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。			
	12 月	4	現代の感染症	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。			
			感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。			
			性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。			
3 学期	1 月 2	4	健康に関する意思決定・行動選択	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	期末 考査	提出 物(プ リント) レポ ート課 題	授業 の取 り組 み  行 動 観 察  ノ ー ト
			健康に関する環境づくり	・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。			
			事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。			
			安全な社会の形成	・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。			
	3 月	3	交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。			
			応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。			
			日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。			
3 月			心肺蘇生法	心肺蘇生法を理解し、AEDの操作ができる。			振 り 返 り シ ー ト

担当者からのメッセージ(学習方法など)

保健は日常生活に役立つ情報ばかりです。知っていそうで知らないこともたくさんあると思います。授業では積極的な態度で学んでください。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	美術 I		学年	単位数
芸術	科目名	■必修 □選択	1年	2単位
使用教科書	高校生の美術1		使用教室	
	116 日文	702	HR教室	
学習の目標	感性や美意識, 想像力を働かせ, 対象や事象を造形的な視点で捉え, 自分としての意味や価値をつくりだすなどの造形的な見方・考え方を構築させ, 美的体験を重ね, 生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目標とする。			
評価	評価法	芸術科美術として育成を目指す資質・能力を明確にし, 生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ, 知識及び技能、思考力, 判断力, 表現力等、学びに向かう力, 人間性等の三つの柱で総合的に判断する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	造形的な視点を豊かにするために必要な知識と, 表現における創造的に表す技能に関する。
		b	思考・判断・表現	表現における発想や構想と, 鑑賞における見方や感じ方などに関する。
		c	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組む態度や生涯にわたり美術を愛好する心情, 豊かな感性などに関する。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1	4・5・6・7	1	オリエンテーション	美術に対する知識、用材の学習、技能の身に付け方、制作作品の内容の把握、美術への取り組み方への活動の確認。	実技・作品制作・定期試験	実技・作品制作・定期試験	実技・制作・鑑賞態度・意欲
		24	意匠の学習 ポスター ぬり絵 レタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩と彩色方法を考察しデザインへの取り組み方、文字の工夫とポスターを鑑賞し、制作する。</li> <li>・調和と技法・用具、用材研究、理解、色鉛筆等で表現する画材の可能性と知識の確認。</li> <li>・構成の学習・意匠、表現の理解</li> <li>・作品の制作、鑑賞、講評</li> </ul>			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 題材	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法			
					a	b	c	
2	9	8	ちぎり絵・ポスター	意匠の工夫・用具の使い方・構成、仕上げ、鑑賞、講評	実技・ 作品制作・ 定期試験	実技・ 作品制作・ 定期試験	実技・ 作品制作・ 鑑賞態度・ 意欲	
		10	絵手紙コンクール	意匠の工夫・用具の使い方・構成、仕上げ、鑑賞、講評				
		11	年賀状コンクール	意匠の工夫・用具の使い方・構成、仕上げ、鑑賞、講評				
		12	4	組み絵				意匠の工夫・用具の使い方・構成、仕上げ、鑑賞、講評
3	1	8	銅板レリーフの制作	・意匠、制作、鑑賞、仕上げの工夫・銅版素材を理解しデザインを考察し技術を習得する。				
		2	8	かまぼこ板の絵の制作				・用具の使用方法の習得、技術を身につけ、詳細な絵画作品の制作、仕上げ、制作、完成し意欲と根気を集約する。
		3	4	万華鏡制作				・構成、仕上げ、鑑賞、講評。デザイン(文様、生活を彩る柄や携帯を考察し、構成、鑑賞から心の育成に繋がる作品制作の育成。

担当者からのメッセージ(学習方法など)

美術における基礎的な技能を身に付け、芸術としての立場から、様々な変化と調和による美しさを追求し、美術能力を高め自己を表現する力を養う。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	英語コミュニケーション I		学年	単位数
外国語	■必修 □選択		1年	2単位
使用教科書	COMET English Communication I		使用教室	
	104 数研	717	HR教室	
学習の目標	<p>1. 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>2. 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>3. 日常的な話題について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>4. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>5. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>			
評価	評価法	定期考査、授業プリント、授業態度、発表内容により評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、学習している話題について理解したり伝えたりする技能を身につけている。
		b	思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて学習している話題について、必要な内容を読みとったり聞きとったりして、その要点を捉え、書いたり話したりすることで伝えあっている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に学習活動に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月		中学校の復習	・アルファベット ・身の回りの名詞 数字 ☆音と意味を理解して、書いたり話したりできるようになる。	提出 プリント	授業の 発表内 容	授業 の取 組
	5月	・身の回りの名詞 体・時・動物・食べ物・場所・天気・人 ☆音と意味を理解して、書いたり話したりできるようになる。		中間 考査			

(裏に続く)



期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	6 月			・代名詞、be動詞・一般動詞、 ・品詞、主語・述語 ☆それぞれの働きを理解して、英語の内容を理解して、 書いたり話したりできるようになる。	期末 考查	期末考 査	授業 の取 組
	7 月			・否定文・疑問文 ☆表現方法を理解して、書いたり話したりできるようにな る。			
2 学期	9 月	Lesson1	Lesson2	・材料：海外の旅行者が日本での経験を掲示板に投 稿。 ・文法：過去形	提出 プリン ト  中間 考查	授業の 発表内 容  中間考 査	授業 の取 組  提出 プリン ト
		Lesson2		・目標：思い出に残っている経験を英語で述べる。 ・材料：友だち同士で好きなダンスの動画を見せる。 ・文法：進行形 ・目標：自分の好きなことについて英語で述べる。			
	10 月	Lesson3	・材料：海外で注目されるおにぎりについての学校新 聞。 ・文法：助動詞 ・目標：日本の文化を英語で紹介する。				
	11 月	Lesson4	・材料：ピクグラムについてのスピーチ。 ・文法：不定詞 ・目標：身の回りにあるピクグラムを英語で紹介する。				
	12 月	Lesson4	・材料：ピクグラムについてのスピーチ。 ・文法：不定詞 ・目標：身の回りにあるピクグラムを英語で紹介する。				
3 学期	1 月	Lesson5		・材料：ファシリテイトゥグと、ハンドラーである看護師森田さん。 ・文法：動名詞 ・目標：興味のある職業について英語で紹介する。	提出 プリン ト	授業の 発表内 容	授業 の取 組  提出 プリン ト
	2 月	Let's Try Riddles!		・材料：なぞなぞ	学年 末考 査	学年末 考查	
	3 月	Let's Try Riddles!		・材料：なぞなぞ			

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

1学期は中学校の復習をします。2学期から教科書の学習に入ります。授業では毎回配るプリントを完成して提出してください。考查はすべて学習したことから出題します。授業には積極的に参加してください。積極的でない行為は禁止です。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	工業技術基礎		学年	単位数
工業	科目名	■必修 □選択	1年	2単位
使用教科書	工業技術基礎 7 実教 701		使用教室 機械科 実習棟	
学習の目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。 安全作業を第一に、小グループでの作業を行う中で、ものづくりの楽しさや技術の習得を目指す。			
評価	評価法	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。広い視野をもつことを目指して学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養い、社会的な意義や役割を人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、ものづくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付ける。また、課題を発見し、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養うことを目標とする。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技術	工業技術について工業の持つ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	工業技術に関する広い視野を持つことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1	4	全体 1	工業技術基礎を学ぶにあたって(オリエンテーション)	工業の各共通する知識や技能、態度を身に付けることを目的とし、全体説明・工業技術基礎全般における安全作業等を確認させる。	実技 レポート	作業 レポート	作業 観察
	5	各班 2時間 × 2回	アーク溶接	アーク溶接機の操作を理解する。 アーク溶接機器の取扱いを習得する。			
	6		手仕上げ	やすり仕上げの基本を理解し、やすりによる平面仕上げ方法を習得する。 けがき工具の取扱い方について習得する。			
	7		計測製図	測定機器(スケール・外パス・ノギス・マイクロメータ)の原理・構造・使用上の留意点を理解する。			
2	9	各班 2時間 × 2回	アーク溶接	アーク発生のかた、ビードを置く(ストリング・ウィビング)技能を習得する。			
	10		手仕上げ	製作図に示された寸法に正しくやすり仕上げができる			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法					
					a	b	c			
2	11		計測製図	測定機器(スケール・外パス・ノギス・マイクロメータ)の正しい寸法の測定方法を理解し、サンプル資料を用いて実際に測定する。	実技 レポート	作業 レポート	作業 観察			
	12		アーク溶接	各継手(突合せ・当て金・T)の方法の技能を習得する。						
3	1	各班 2 時間 × 2 回	手仕上げ	各種工具(ドリル・タップ・刻印)の適切な取り扱いについて習得する。						
	2		計測製図	図面の表し方を理解する。ドラフターの使用方法を習得する。第三角法による製図作業をする。						

担当者からのメッセージ(学習方法など)  
各班(2班または3班)に分けて2時間×2回としてローテーションしていく。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	工業情報数理		学年	単位数
工業	科目名	■必修 □選択	1年	2単位
使用教科書	精選工業情報数理		使用教室	
	7 実教	719	HR教室	
学習の目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解すること。 情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得すること。 実際にコンピュータを使用し、情報を活用する能力と態度を育てること。 情報の適切な取り扱いを行い自分で思考・判断できる。			
評価	評価法	定期考査、提出物、学習の取り組み状況などの総合評価をおこなう。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	1	「工業情報数理」を学ぶにあたって	年間計画から教科の狙い、数理の基礎など			ノート
	5	10	第1章 産業社会と情報技術 1. 情報と生活 2. 情報化社会の光と影 3. コンピュータの特徴 4. 情報化の進展と産業社会	・情報やデータの意味、情報化社会の利点や問題点について理解させる。 ・情報・情報処理・データ・ICTなどの用語の意味を理解させる。 ・情報化社会の発展が社会や個人の生活に及ぼす影響について、その光と影の部分を理解させ、社会人として、望ましい情報の活用ができるようにする。 ・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、さらにインターネットなどに接続され利用されていることについて理解させる。 ・使用PCの管理や設定など	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	7	9	第1章 産業社会と情報技術 5. 情報化社会のモラルと管理 6. 情報セキュリティの管理 7 問題の発見・解決と情報技術の活用	・知的財産権、プライバシーの保護など法的・技術的・文化的な観点で、自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解させる。 ・コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための基本的な技術を理解させる。 ・問題の発見・解決に向けて具体的に考え、お互いの意見を述べたり発表したりできる。 ・情報の適切な収集・分析・整理に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	6	6	第7章 数理処理 1. 単位と数理処理	・単位や量の扱いで中学の復習をする。 ・量の名称・量記号・単位(SI)について、理解させる。	小テスト 考査	発表 考査	ノート 考査

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9	10	第7章 数理処理 2. 実験と数理処理 3. モデル化とシミュレーション	・数値や数式の扱いを理解する。 ・実験データをグラフによって可視化し、データの特徴を見いだす方法を身につけさせる。 ・いろいろな事象が、モデル化によって数式として扱えることを理解させる。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	10						
	11	16	第4章 ハードウェア 1. 処理装置と周辺装置 2. データの表し方 3. 論理回路の基礎	・コンピュータ構成、処理装置の動作について理解させる。 ・入出力装置と補助記憶装置について理解させる。 ・コンピュータで用いるデータについて理解させる。 ・文字・音・静止画像などのデジタル化を理解させる。 ・2値で演算や制御を行う論理回路の基本について理解させる。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	12						
3 学期	1	18	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 2. ソフトウェアの基礎 3. アプリケーションソフトウェア	・コンピュータの正しい利用手続き、マウス・タッチスクリーン・キーボードなどの基本的な操作について理解させる。 ・作成したデータ保存やデータ利用に必要なしくみと取扱いについて理解させる。 ・ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および基本操作について理解させる。 ・どのようなアプリケーションソフトウェアがあるか理解させ、実際に使えるようにする。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	2						
	3						
			第5章 ネットワーク 第3章 プログラミング 第6章 コンピュータによる制御	2年生で学習予定			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

1年から2年生にかけて、数理に関するものと、情報に関する学習を行います。2年生では、プログラミングを中心に行う基礎を学習します。